

# 生活科における身近な自然物との対話を通じた

## 栽培活動の研究

### —生活科第1学年アサガオ単元における 対話活動と記録カードの工夫—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（生活科）

山尾 芙左

長期期間アサガオと関わることで、身近な自然物に心を寄せ、感性を働かせながら対話活動を行い、表現力を発揮することで愛着を持つことができるかどうか明らかにするために、対話活動を通して自分のアサガオが身近な自然物に心を寄せ、感性を働かせながら児童特有の表現をすることができるよう、単元計画を立て、実践した。

1. 5月～10月の長期期間、アサガオとともに生活していたため、アサガオに話しかける活動をすることで、アサガオを身近な自然物と認識することができ、豊かな感性を発揮しながら、児童特有の表現を引き出すことができていた。
2. 記録カードや手紙などの対話活動を行うことで、観察文だけでは児童の思いやアサガオとの関わりが把握できなかった児童とアサガオの関わりや児童の思い、アサガオの気持ちが表れることがわかった。身近な自然物では子どもは感性を働かせながらアサガオの気持ちになって表現することが明らかになった。